

フォトジャーナリスト 豊田直巳の見た福島・原発震災のまち

フォト・ジャーナリスト豊田直巳、311以降、福島原発のすぐそばまで接近し取材を行い、被災地とそこにいる人々の状況をカメラに収め続けてきた。放射線測定器は警報を発し続け、その針は振り切れたまま動かなかった。まさに「命がけ」の取材。

豊田さんはこれまでもイラクでの被曝米兵やチェルノブイリなど各地を取材し、放射線と人の関係を丹念に記録してきました。チェルノブイリ原発事故から25年のドキュメンタリー制作の取材を終え、ウクライナ・ベラルーシから帰国した翌週の12日には「日本での原発取材」をはじめべく福島に立っていた。

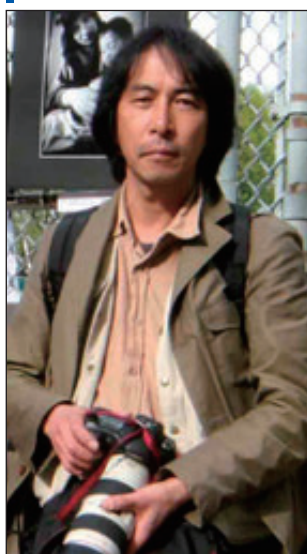
以前から、イラクでの「劣化ウラン弾」の子どもたちへの影響を心配し、訴え続けて来た彼はまさに放射線被曝の問題を第一線でおいかけてきた第一人者である。そんな豊田さんを京都へお招きし、ふんだんな写真と共に原発震災のまち福島とその人々の様子をうかがいます。原発作業員への取材をはじめ、飯館村の酪農家の長谷川健一さんとの触れ合いの話などを予定。

10月4日(火) 18:30

ひとまち交流館3F第4会議室 参加料500円



豊田直巳 19:00～ 講演会 / 20:00～ 質疑応答



1956年、静岡県生まれ。フォトジャーナリスト。2003年、平和・協同ジャーナリスト基金奨励賞。日本ビジュアルジャーナリスト協会(JVJA)会員。イラクやパレスチナなどの紛争地を巡り、人々にとっての「戦争と平和」を写真や映像で報道。劣化ウラン弾問題やチェルノブイリ取材の経験から、原発震災以降は福島を中心に取材し、新聞、雑誌やテレビで報道。最新刊に『フォトルポルターージュ 福島 原発震災のまち』(岩波書店)、『豊田直巳編 TSUNAMI 3・11』(第三書館)、『JVJA写真集 3・11 メルトダウン』(凱風社)、その他に『戦争を止めたい』(岩波書店)、『子どもたちが生きる世界はいま』(七つ森書館)、『大津波アチェの子供たち』(第三書館)、『イラク戦争下の子供たち』(第三書館)、『イラク 爆撃と占領の日々』(岩波書店)など写真集、著書多数。DVD作品に『知られざるDU(劣化ウラン)の恐怖』(日本語・英語二ヶ国語版)

守田敏也 18:30～ 内部被曝について

1959年生まれ。京都市在住。同志社大学社会的共通資本研センター客員フェローなどを経て、現在フリーライターとして取材活動を行いつつ、社会的共通資本に関する研究を進めている。原子力政策についても独自の研究を行っている。震災後のデータ収集と鋭い分析力により、震災後、精力的に講演活動を行い、多忙な毎日を送っている。

主催：豊田直巳さんの話を聞く会
問合せ先：090-6005-6878(片岡)



フォトルポルターージュ
福島 原発震災のまち
(岩波ブックレット)

当日は
サイン即売会を
行います

収束の兆しが見えない福島原発事故。フォトジャーナリストの著者は、震災直後から福島で取材を重ねる。生活の痕跡を残しつつ人影の消えたまち、放射能汚染や行政の対応に翻弄される住民、廃業を迫られる酪農家、作業員の語る原発労働の現状…。現地の生の声とともに、原発震災下の実態をカラー写真とルポで描き出す。

